

# 台湾原住民族との交流会発足 20 周年記念文学フォーラム

タイワンユエンチュミンツ

## 台湾原住民族作家はいかにして物語を書くか

—長編小説作家、アオヴィニ・カドウスガヌとパタイの場合—

### 台湾原住民族との交流会よりのご挨拶

1993年6月13日に発足した台湾原住民族との交流会は、台湾原住民族と日本の市民の「顔の見える交流」から、お互いの文化や歴史を理解しようとしており、日本と台湾の交流窓口の一つとなっています。発足20周年の今年を記念して台湾原住民族の長編作家のお二人をお招きし、その文学世界について語っていただくフォーラムを開催いたします。この又とない機会に、皆様のご参加をお待ちしています！

(パイワン族、ルカイ族の聖山、北大武山(標高3,092m)頂上稜線から、中央部左側山腹、下パイワン(旧)社(パイワン族、現筏湾部落)、隘寮溪を隔てて右側山腹下のコチャボガン(新)社(ルカイ族、新好茶部落、八八水災で消滅)を俯瞰する。写真奥は、高屏平野と台湾海峡 撮影：西 豊穰)

日時：2013年9月21日(土) 13:15～16:50(13時 受付開始)

会場：明治学院大学 白金台キャンパス  
本館 10F 大会議場

参加費：500円(資料代込) 申込不要 直接会場へどうぞ！

※17:10～19:00に懇親会を同学内で  
予定しています。参加費2000円(学生1000円)。  
懇親会参加をご希望の方は当会サイトの問い合  
わせフォームにてお申し込み下さい(9/17締切)。

主催：台湾原住民族との交流会

共催：明治学院大学国際学部

後援：草風館、台北駐日経済文化代表処



(タマラカウ物語(上)、台湾原住民族文学選7表紙(草風館))

お問い合わせ：台湾原住民族との交流会

<http://www.ftip-japan.org/> 問い合わせフォーム  
にて

\*台湾の少数民族の公式呼称は「原住民族」です。「原住民」という名称は1994年に憲法に記され、1997年に「原住民族」に修正されました。本フォーラムではこの呼称に従っています。上の「部落」「～族」も台湾の呼称に倣っています。

関西の方は天理大学へ！

二人の作家の講演会は天理大学でも開催します！

主催：中国文化研究会

日時：9月24日4時半から6時

場所：天理大学研究棟第一会議室

天理大学国際学部中国語研究室(Tel:0743-63-9051)

下村研究室(Tel:0743-63-7412)

メール：xiacun1@gmail.com)

## ◆交通案内◆

- 【品川駅】高輪口より 都営バス「目黒駅前」行に乗り  
「明治学院前」下車 (乗車約6分)※徒歩約17分  
【目黒駅】東口より都営バス「大井競馬場前」行に乗り  
「明治学院前」下車 (乗車約6分)※徒歩約20分  
【白金台駅】2番出口より徒歩約7分  
【白金高輪駅】1番出口より徒歩約7分  
【高輪台駅】A2番出口より徒歩約7分



## ◆プログラム◆

- 13:30~13:50 下村作次郎(天理大学)…  
基調報告「翻訳・受容・交流・創造」
- 13:50~14:30 アオヴィニ・カドウスガヌ(ルカイ族)  
『野のユリの歌』の構想過程」中国語(通訳付)
- 14:30~15:10 パタイ(プユマ族)…「なぜ部落の物語  
とエスニック文学が必要なのか」中国語(通訳付)
- 15:10~15:25 魚住悦子(国際交流基金)…「訳者の話」
- 15:25~15:40 休憩
- 15:40~15:55 林 麗英(国立民族学博物館外来研究員)  
報告「故郷に生きる希望と喜びのメッセージ(仮)」
- 15:55~16:10 中村 平(神戸女子大学)  
報告「日本人読者と『タマラカウ物語』:植民地  
統治責任をめぐる」
- 16:30~16:40 中村ふじゑ(台湾原住民族との交流会)  
全体コメント

## ◆作家プロフィール◆

アオヴィニ・カドウスガヌ(奥威尼・カ露斯、  
Auvini.Kadresengane)  
1945年、屏東県霧台郷コチャポガヌ(旧好茶村、  
Kochapongane)生まれ。ルカイ族。漢名は邱金士。  
台湾三育基督学院企業管理学科卒業後、1980年代末  
まで基督復臨安息日会で伝道に従事しながら教会事  
務の会計を担当する。その後、「回帰部落」運動のな  
かで、1990年に故郷の旧好茶村に帰り、創作活動に  
従事するようになる。作品集には『魯凱童謡』(1993  
年)、『野百合之歌』(2002年)、『雲豹的伝人』(1996  
年)、『詩と散文的魯凱 神秘的  
消失』(2006年)などがある。散  
文「雲豹の伝人」(『台湾原住民  
文学選4』草風館、2004年)と  
長編小説「野のユリの歌」(同7、  
2009年)が邦訳されている。



## パタイ(巴代、Badai)

1962年、台東県卑南郷泰安村タマラカウ(大巴六九、  
Damalakau)生まれ。プユマ族。本名は林二郎。卑南国  
民中学卒業後、中正預校、陸軍官  
校で学び、職業軍人になる。教官  
を務めたのち、2006年退役。2005  
年、台南大学台湾文化研究所修士。  
2002年「薑路」(邦訳「ジンジャ  
ーロード」、『台湾原住民文学選  
4』)で原住民報導文学賞を受賞し、



2008年には長編歴史小説『笛鶴(ディーグワン)』で  
台湾文学賞を受賞した。その後、タマラカウを舞台に  
した歴史長編小説『斯卡羅人』(2009年)『馬鐵路(マ  
テル)』(2010年)『走過』(同)『白鹿之愛』(2012年)  
を出版している。また、巫術についての研究書や、タ  
マラカウ部落に伝わる祭儀を記録した書も出版してい  
る。台湾原住民族文学ペンクラブ副会長。邦訳『タマ  
ラカウ物語(上・下)』(草風館・2012年)は『笛鶴』『馬  
鐵路』を訳出したものである。

## ◆報告者プロフィール(登壇順)◆

下村 作次郎:天理大学国際学部教授。中国現代文学、台湾文学、  
台湾原住民文学。翻訳・編集に呉錦発著『悲情の山地 台湾原住  
民小説選』(1992年)、『台湾原住民文学選』(全9巻)、孫大川著  
『台湾エスニックマイノリティ文学論』(2012年)などがある。

魚住 悦子:国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員。日  
本語教育、台湾原住民文学、霧社事件。訳書に『抗日霧社事件の  
歴史』(2000年)、『台湾原住民文学選2 リカラッ・アウー/シ  
ヤマン・ラボガン集』(2003年)、『タマラカウ物語(上)(下)』(上  
記)などがある。

林 麗英:台湾出身。現在、大阪市在住。国立民族学博物館の外  
来研究員として「台湾原住民族」の農耕活動に関する歴史的文化的  
の変容過程の研究活動を行っている。

中村 平:2001年台湾大学人類学部修士。2007年大阪大学博士  
(文学)。現、神戸女子大学文学部助教。台湾原住民族との交流会  
会員。1990年代末から台湾で聞き書きを行っている。台湾と日  
本の脱植民化。自治運動。共著書に『コンタクト・ゾーンの人文学  
IV ポストコロニアル』、訳書に周婉窈『図説台湾の歴史』(増  
補版)などがある。

中村ふじゑ:台湾原住民族との交流会、台湾慰安婦裁判を支援す  
る会、日本台湾学会各会員。著書に『オビンの伝言—タイヤルの  
森をゆるがせた台湾・霧社事件(教科書に書かれなかった戦争—  
歴史を生きぬいた女たち)』(2000年)などがある。

(バラクワン(青年集会所)前の長老達。撮影:パタイ)

